

蒲郡暮らし実感ツアー 「リアルな蒲郡がわかる1日旅。」

第3弾 「蒲郡スタイルの働き方を学ぶ旅」を開催しました！



蒲郡スタイルの働き方を学ぶ旅

「リアルな蒲郡がわかる1日旅。」の第3弾として、「蒲郡スタイルの働き方を学ぶ旅」を開催しました。

【14:00～ 集合・開会】

蒲郡市生命の海科学館のメディアホールに、蒲郡への移住を希望する方など8名が集合しました。今回のツアーは募集定員8名のところ、10組14名の応募がありましたが、体調不良や休養などを理由に欠席が増え、結局5組の8名の参加となりました。



開会にあたって市担当課長より、挨拶と今回の移住ツアーの趣旨などを説明し、その後、スタッフ側も含めて自己紹介を行いました。東京、愛媛県松山市、豊橋市と近くから遠方まで幅広いエリアの方にご参加いただくとともに、第1弾や第2弾に参加した2組など、1人参加、子育て家族、ご夫婦の方が参加されました。参加理由では「前回のツアーに参加し、蒲郡市の魅力が高まったので、もっと色々な話を聞きたくて参加した。」、「弟が蒲郡で暮らしており、蒲郡での移住も一つの選択肢になっているため、蒲郡の生活環境や働き方などを少しでも知りたいと思って参加した。」、「蒲郡にはこれまで色々関わっており、興味があったから」、「移住に興味があり、第1弾のツアーに参加してもっと蒲郡のことを知りたいから」、「子どもが生まれ、妻の地元の名古屋に近く、愛媛県の環境に近い場所で子育てしたいと考え、蒲郡のことをもっと知りたいと思ったから」などを語っていただきました。



その後、市から配付資料をもとに、蒲郡の特色、空家・空き店舗バンク制度やリノベーション補助金の紹介などを行いました。

【14：30～ コワーキング施設や暮らしの場の紹介】

蒲郡商工会議所へ移動し、蒲郡商工会議所経営指導員の石川直樹さんから、施設内のコワーキングスペース「コワーキングEGG」をご案内いただくとともに、創業支援のメニューについて説明いただきました。

「2017年に全国でも珍しい商工会議所内にコワーキングスペースを作った。専門的な相談にものれ、1日500円で利用できる。利用者の多くは30～40歳代で、IT系の方が最も多い。この住所で登記も可能なプランもある。また、市と連携して5日間でビジネスプランを練り上げる創業塾の開催、創業助成金などの創業支援メニューもある」などを話していただきました。



その後、車で移動し、蒲郡市民をはじめ、市外の方も新鮮な野菜や魚が揃うということで多くのお客さんでにぎわう「サンヨネ蒲郡店」を訪問しました。

【16：00～ セミナー① 蒲郡での住宅探し ～丸七住宅(株)蒲郡店 太田浩史さん】

会場を竹島周辺にあるゲストハウス八百富に移し、移住者が最も困る蒲郡での住宅探しの秘訣を学ぶセミナーを開催しました。

なお、先輩移住者4名が参加し、セミナーがスタートしました。



太田さんは、これまで注文住宅の営業、ホテルフロントマン、分譲住宅の営業、不動産仲介の営業の経歴を持ち、昨年からは東栄町との二拠点居住を始められました。住宅探しのスペシャリストとして蒲郡の相場感、物件紹介、蒲郡に移住された方のお話、ワンポイントアドバイスなどをしていただきました。

「周辺に比べて土地は安いこと、市内の各地区で特徴がある。蒲郡へ移住した理由には、夫婦の実家の間をとって蒲郡にした方、名古屋への通勤がしやすく安いから、海が見える場所で暮らしたい、釣りが趣味など、自然と利便性を求めて来た方が多いのが特徴。ワンポイントアドバイスとして、物件掲載数が多い不動産ポータルサイトを活用すること、地域に強い不動産会社を活用すること、しかし、人任せではなく、五感を使って現場に通う行動力とスピード感が重要。」と話していただきました。

【17：00～ セミナー② 蒲郡での暮らしの紹介 ～ゲストハウス八百富 松島調さん】

松島さんは、ゲストハウス八百富のオーナー・高木さんのもとで、1年前から東京と蒲郡の二拠点生活をしています。二拠点生活の楽しさ、1週間のスケジュール、暮らしぶり、今後の野望などを語っていただきました。



「東京では大学で日本語を教え、日本語教育の支援団体代表も務めている。大学が長期休みの間に蒲郡で暮らしている。それ以外にも毎週末蒲郡に来て楽しんでいる。晴の日は半田へ行き農業、雨の日はコメダに行く。また、奥三河へ行くと、野生の鹿に遭遇したり、満天の星空を眺めたり、充実した日々を送っている。二地域居住は生活にメリハリが付き、人とのつながりも感じている。知らない土地で心地よく暮らすためには、自分が自分でいられる居場所を見つけること、自律のために一人の場所を確保すること、友達を作ることなど、社会、自分、他者とのつながりを大事にしている。今後の野望としては、ゲストハウス八百富などを拠点にして交流の場を作りたい、大学のキャンパスを作りたい」と話していただきました。



後半は、ワークとして「二拠点生活で大変そうなこと？」について話し合いました。



参加者からは「お金」、「仕事とプライベートのバランス」、「移動時間」、「体力」、「人間関係」、「家を空けるのが心配」などの意見が出ました。松島さんからは「大変なことはほとんどない。同じ形で趣味ができなくなったことはあるが、畑、三河木綿など新たな趣味にも出会えた。もっと友達を作り、自律のために決して怒らず、チャレンジしていきたい」と熱く語っていただきました。

【18：00～ 蒲郡での暮らしを考える座談会+先輩移住者との交流会】

「酒味浪漫笹や」のメヒカリ天むす・ニギスの団子汁などの弁当、蒲郡産イチゴや飲み物など蒲郡名物を味わいながら交流しました。

また、1日を振り返り「蒲郡でこんな仕事・働き方をしたい」、「こんな暮らしをしたい」、「移住に絶対に必要なもの」を発表いただきました。「ゆっくり、のんびり家庭菜園がやりたい」、「まちづくりや観光に貢献したい」、「自然の中で暮らしたい」、「海や山が近い暮らしで、フルリモートで働き、海辺で一息したい」、「美しい景色を見ながら毎日リフレッシュ」、「人と関わる仕事など好きなことを仕事にして、のんびりしながら趣味や仕事を充実させたい」、「自分の時間を大切に、ワクワクする色々な体験をしたい」など声がありました。



【19：50～ 閉会】

最後は一丁締めで第3弾の「蒲郡スタイルの働き方を学ぶ旅」が終了しました。



■ツアー参加者が描く「蒲郡スタイルの働き方・暮らし方イメージ」

①蒲郡でこんな仕事・働き方をしたい！	② こんな暮らしをしたい！	③ 蒲郡への移住：これは絶対に必要！と思うこと
○福祉の仕事。ケアマネの資格を生かしたい。	○ゆっくり、のんびり、家庭菜園がやりたい。	○近くにテニスコート（希望）
○人と関わる仕事、ペットと関わる仕事。自分の好きなことを仕事にして働きたい。	○のんびりしながら、趣味・仕事を充実させていきたい。	○自宅 ○自然が近い
○自分の時間を持てるような働き方。	○ワクワクするいろんな体験をしたい。 ○県外の友人を呼びたい。	○車 ○自転車 ○コミュニティ
○まちづくりや観光に携わることができる仕事をしたい。	○地域と行政とのパイプ役を務めつつ、より良いまちづくりのために貢献することを楽しみとしたい。	○家族の理解、協力
○フルリモートで働き、海辺で一息。	○海・山が近い暮らし。 ○思いつきで遊びに行っても混んでいない。	○子育て支援施設
○子育てと、いいバランスをとって働きたい。 ○小さな商い。	○家族が食べる分くらいの野菜・米などをつくって暮らしたい。	○自然
○当面は今の仕事を続けつつ、何かやってみたいことが見つかるか。	○美しい景色を見ながら毎日リセット・リフレッシュ。	—